

行事報告

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業—オンライン CIS 活動報告(日本)

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業 国際人材育成部門
特任講師(常勤) 橋本 智恵

2021 年度のオンライン CIS (カップリング・インターンシップ)日本が、8 月 23 日-30 日の期間にマレーシアと日本を結んでオンラインで実施されました。昨年度に続き本年度も新型コロナウイルスの影響によりオンラインでの実施となりました。大阪大学の外国語学部 1 名、工学研究科 3 名、マラヤ大学の人文社会科学部 2 名、機械工学科 2 名の計 8 名の学生が参加しました。本学学生は、5 月から日本で計 8 回の事前研修を受講し、本番に向け準備を行いました。

CIS 開始後 2 日間は、日本・マレーシアの国紹介、日本企業の説明やコミュニケーションの研修、溶接基礎知識の教育、CIS 実習テーマのチーム協議などを行いました。

8 月 25 日からの 3 日間は、兵庫県相生市にある IHI 相生工場とオンラインでつなぎ企業研習を実施しました。研修としては、会社説明(組織、業務内容)や海外経験のある幹部やリーダー、スタッフへのインタビューを行いました。また、実習テーマ「IHI 相生工場におけるグローバル

人材育成の課題と対策」に関してインタビューで得た情報をもとに、連日協議を重ね、一生懸命に取り組みました。

最終日の 8 月 30 日には、CIS 参加学生が 2 チームでテーマに対する課題と対策を発表しました。最終報告会には、マラヤ大学の Farazila 機械工学学科長と Ridha 講師、Rohayati 東アジア研究学科長、IHI 相生工場の永吉工場長、大濱課長、渡辺課長、大阪大学の菅特任教授、井上教授、橋本特任講師、寺西特任助教ら計 20 名の参加があり、活発な質疑応答が行われました。永吉工場長からは、「非常に多くの提案をいただき感謝している。この CIS では素晴らしい対策を出すことより対策を出すまでの過程が重要であり学生はそこから様々な学びがあったと思う」とのコメントがありました。

学生は、「ものづくり企業」について理解する共に、実習テーマを通して「コミュニケーションや異文化理解」の重要性を習得しており、大変意義のある活動でした。

